

ワールドフレンズ天草

令和4年度 事業報告

令和4年度 事業報告

【自主事業①】外国人支援(CSR社会貢献活動として無償対応)

		場所	概要
1	在住外国人支援の必要性について提案	苓北町	行政の事業としていかなる分野でも在住外国人の支援がおこなわれていないため、これまで当団体で把握している苓北町での支援が必要とされた事例について情報共有。当団体で提供できる支援について紹介。
2	在住外国人のご家族が他界され葬儀に参列	天草市	団体として関わりの深い在住外国人の方の近しいご家族が亡くなられ葬儀に参列。

【自主事業②】異文化紹介(CSR社会貢献活動として無償対応)

		場所	概要
1	北小異文化交流クラブ	本渡北小学校	22年度は4回、海外在住経験者の日本人と協力し、北小学校4～6年生のクラブ児童に向けて世界の文化や習慣を紹介。
2	つんのでフェスタ	天草市	人権をテーマとした市のイベントの実行委員として携わる。 天草在住で外国にバックグラウンドを持つ2名が日本での生活について日本語でスピーチをした。 パネル展示では当団体の活動を紹介。



令和4年度 事業報告

【自主事業①】講演

		場所	概要
1	天草で国際交流！ 伝える・伝わる・分かり合う ～世界に友達できるかな～	天草市	天草島内の中学生を対象に、日本在住の外国人とコミュニケーションを図るための「やさしい日本語」についてレクチャー。
2	地域日本語教室 サポータースキルアップ研修会	熊本市	ワールドフレンズ天草が実施している日本語教室について紹介。
3	玉名国際交流協会視察	玉名市	天草における外国人の状況と、ワールドフレンズ天草がこれまで行ってきた多文化共生事業について立ち上げの経緯まで遡り紹介。官民連携の体制構築の視察。
4	本渡中学校3年生 進路講演会	天草市	北京留学、台湾留学、国内・海外添乗員の経験と、現在行っている外国人支援について講演。
5	五和小学校6年生 天草の外国人・ベトナムについて の講話	天草市	天草島内の外国人の状況について説明。また、天草在住のベトナム人ガーさんによるベトナムの紹介や、日本とベトナムの違いについて講話。



1. 天草で国際交流！



3. 玉名国際交流協会視察



4. 本渡中学校3年生進路講演会



5. 天草の外国人・ベトナムについての講話

社会資源に繋がれない外国人のための アウトリーチ型支援事業



ワールドフレンズ天草

2013年在住外国人妻への支援のためボランティア通訳として集まった有志達で団体設立。民間の助成金を活用し、母子で集えるカフェや、日本の季節行事の会等を実施。参加者の話に耳を傾けるうち、相談ができる場と、日本語が学べる場が必要であることを痛感。相談対応、日本語教室を目的とした助成金の採択を受け天草地域全域で実施。助成金事業の実績とニーズが認められ天草市事業として予算化され事業委託されている。



事業概要

昨今のコロナ禍の影響で、外国人散在地域であるここ天草地域でも、在住外国人が帰国予定であるのに帰国できなくなったり、逆に新たに入国予定であった外国人が入国できなくなったりしている。

コロナ禍で日本に在住している外国人にとっては、収入減や雇用継続の不安定さ、また既にある社会資源に繋がれず本来提供されるべき福祉や支援策に繋がれず、より深刻な状況に陥っている方もおられる。

本事業で支援体制を強化し持続性のある支援の繋がりを目指し、在住外国人が安心して暮らせる環境を構築に取り組んだ。

取り組んだ課題・目指すコミュニティ

人口減や高齢化が急激に進む天草では、日本人も外国人も同じ地域を支える仲間として、お互いを大事にできる存在となっていることが必要不可欠である。

しかし、天草で暮らす外国人の多くはあらゆる場面でアウェイ感を感じている。髪や肌の色、言葉や国籍が違うことで、ジロジロ見られ居心地がわるかったり、知らない文化や習慣で不安に感じたり、心の繋がりが持てる友人や仲間が見つからず孤独や疎外感がある。

この事業では、地域の居場所や支援体制の強化をすることで、これまでの支援対象者が「支援されるだけでなく各人の能力を活かして活躍できるコミュニティ」づくりを行い、アウェイではなくホーム感を持てることを目指した。

事業内容

取組①地域の居場所の創設

- 気軽に立ち寄って顔の見える場として孤立を防ぐ
- メニュー開発やイベントの実施、居場所のスタッフとして在住外国人や関わる方が活躍できる場
- 地域に向けての異文化理解のための場所

取組②天草の遠隔地にも支援を届けるための地域サポーターを養成

- 座学と実技による支援員養成講座を実施
- 講座を受けた地域サポーターとの連携の仕組みを構築

取組③在住外国人の労働や雇用企業に関する情報収集と整備

- 天草市の全在住外国人に郵送でアンケート調査
- 対面での聞き取り調査(人づてに紹介・地域で見かけて声かけ)
- 天草地域の企業に外国人の雇用状況について聞き取り調査
- 日本語教室での聞き取り



事業の成果

取組①「居場所づくり」の新しい仲間が増え、7月から毎週1回のスタッフミーティングを行った

- やるべきことを議論し、各々意見を出し合うことで方向性を共有することができた
- 運営経費を賄う方法を思案し、これまで団体でやってきた活動全体の見直しをおこなうことができた
- 地域の方や相談した専門家等を含め新しく関わりを持った方たちに活動を知っていただく大切さに改めて気づいた

取組②「地域サポーター講座」と「日本語ボランティア講座」を計6回実施、のべ67名が参加

- 20代～70代まで幅広い年齢層が参加
- 参加者の約2/3が当団体やその活動に参加するのが初めて
- 新しく7名が日本語教室のボランティアに加わった
- 参加者の91%が「外国人から相談されたら自分が出来そうなことなら動いていい」と回答があり、遠隔地支援の連携体制の構築につながった

取組③⇒これまでに集めた情報

- 外国人雇用企業数
- 働く外国人の個人情報
- 在留資格別人数
- 住所別外国人の人数
- 外国人雇用がある業種別企業数

対象外国人だけでなく企業や近隣自治体から外国人支援について相談いただく機会が増え、これまでなかった地域や分野にも事業の広がりをみせている。

対象者やコミュニティの変化や成長

地域の拠点づくりについては周囲を巻き込んで一緒に作り上げることを大切にしてきた甲斐あって、当初の目的以上に、対象者にとって、「自分が関わった場所」という感覚を持ってくれたようである。より積極性が生まれたメンバーも出てきているのが嬉しい。支援員養成講座を実施したことで、新旧の支援員どちらにも良い刺激が生まれ活性化した。外国人にとっては日本語教室で会う新しい日本人のメンバーが増え、純粋により楽しくなったようでよかった。

情報収集を行ったことにより、当事者が「自分たちの意見を聞いてくれる所があるんだ。意見や相談事を話してもいいんだ。」という意識を持つようになってくれたのは嬉しい変化であった。

見えてきた新たな課題・次のステップ

地域の拠点について、運営コストをカフェ経営で賄おうと計画していたが、実際に調べてみると、知れば知るほどカフェ経営はあらゆるビジネスの中でも利益を生むのが非常に厳しい分野であるということが分かった。そんな厳しい分野にあって、外国人と協力しながら、どのように工夫して安定的に運営していくのかは新たな課題であり、挑戦すべきステップである。支援員の方にサポートしてもらって行う予定のオンライン日本語教室の実施について、パソコンの操作が不慣れな方もおられるのでその部分の対応は課題である。情報整備について、収集した情報をどうアップデートしていくのか、手法についてより調査検討する必要があると感じた。



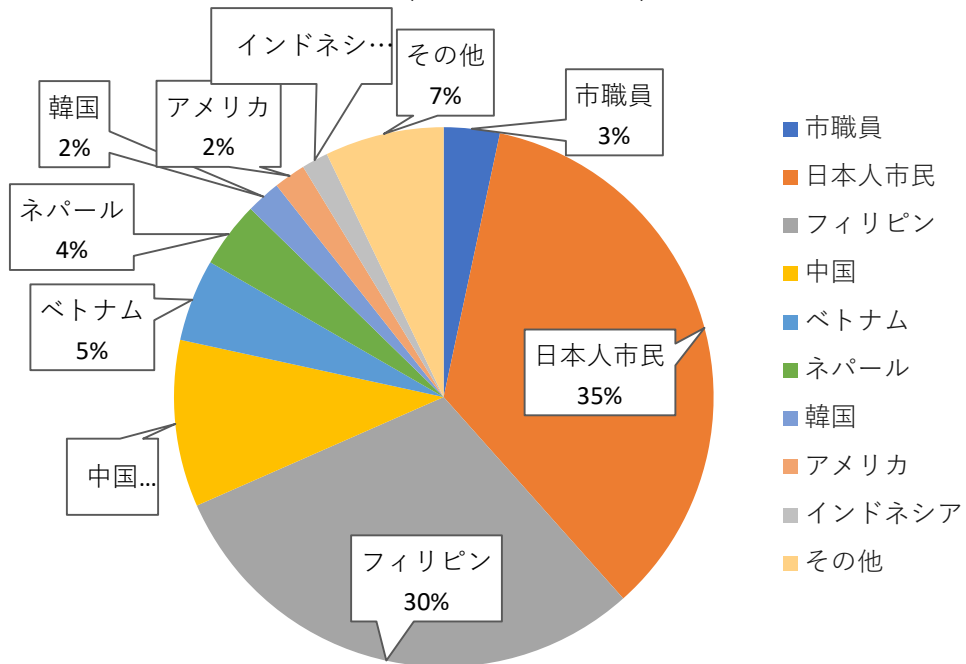
伴走者より

地域の居場所づくり、支援員や地域サポーターの養成、外国人雇用や就業情報などの情報整備に取り組みされる中で、丁寧にスタッフミーティングを積み重ね、当事者の声を聞き、関係者、協力者とのコミュニケーションを行い、困難にも直面しながら、プロセスの中で話し合いを大切に、参加・協力の機会をつくりながら誠実に進められたことが、らしきであり、強みであると思います。助け合いのつながりが紡がれ、期待や信頼が高まっていくことが、映像の一人ひとりの表情からもうかがえます。一人ひとりの顔が見え、愛する人・ほっとけない人がそこにいる雰囲気と組織文化が人を呼ぶ。そんな魅力と価値をますます高めてほしいと思います。(河合 将生)

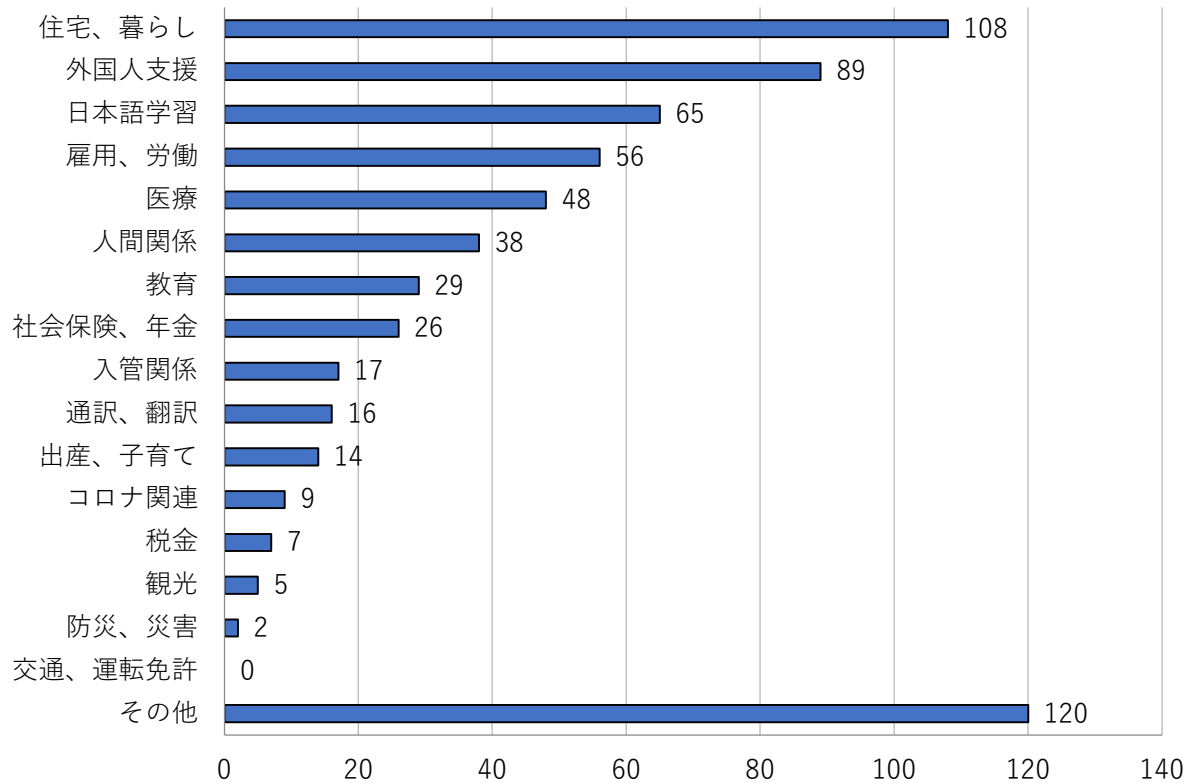
(1) 外国人総合相談窓口の実績報告及び相談・利用件数集計表

実施月	開設日数	受付方法別件数					合計	来庁 人数
		来庁	電話	メール	その他※			
4月	8	6	20	12	0	38	21	
4月時間外		4	2	0	0	6	11	
5月	8	8	34	16	0	58	26	
5月時間外		1	29	3	1	34	7	
6月	9	9	18	40	0	67	4	
6月時間外		3	0	0	0	3	3	
7月	7	6	19	17	2	44	12	
7月時間外		2	0	0	0	2	8	
8月	8	10	28	10	0	48	3	
8月時間外		0	0	0	0	0	0	
9月	8	24	23	35	0	82	20	
9月時間外		7	2	0	1	10	1	
10月	8	1	23	6	0	30	6	
10月時間外		10	7	5	5	27	10	
11月	7	5	15	15	0	35	11	
11月時間外		4	3	6	0	13	6	
12月	8	12	10	15	0	37	7	
12時間外		2	0	0	0	2	8	
1月	7	9	13	7	0	29	18	
1月時間外		5	11	0	0	16	1	
2月	7	10	9	9	0	28	14	
2時間外		0	1	0	1	2	1	
3月	9	15	4	2	2	23	15	
3時間外		0	13	0	0	13	0	
合計	94	153	284	198	12	647	213	

◆年間窓口相談者の内訳（時間外も含む） 単位：件



◆相談内容別件数（時間外も含む） 合計649件



平年同様、日本人からの相談が約4割を占めている。

相談内容も多岐に渡り、高度に専門性を求められるものが多い。

昨年度末に、受託している当団体のホームページ上で、天草市の本相談窓口について発信を開始したところ、ホームページ経由での問合せが増え、海外からも移住を検討している外国人の方（実際に天草市に移住された）や本籍が天草市にあるが日本に住んだことがない日本人の方からご相談があった。

本年度特筆すべき相談内容としては、

- ・日本国籍に帰化しているが何十年も国民年金に加入できなかった方からの相談
- ・生活保護の申請
- ・介護保険の申請や変更
- ・企業のご相談
- ・DV被害についてのご相談

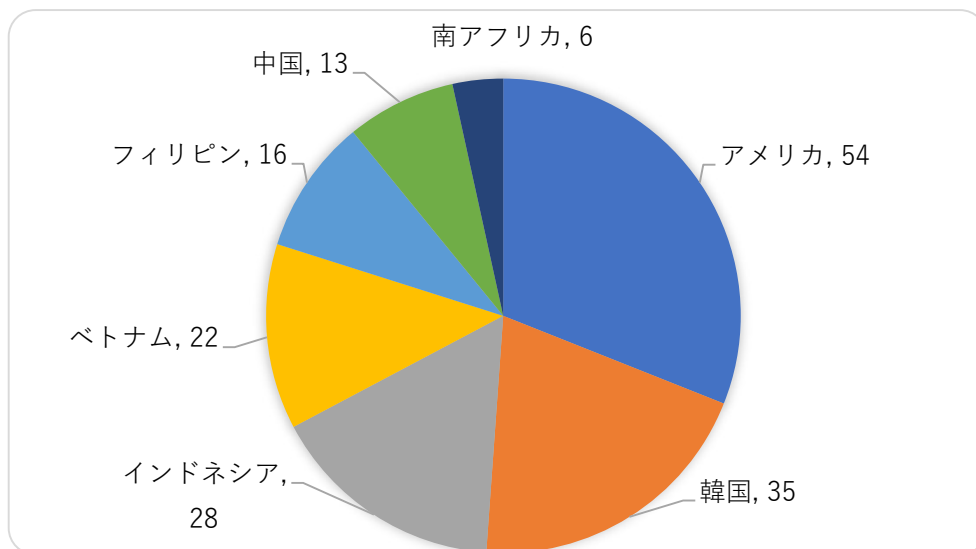
など1つの相談でも複数の関係機関と協力し、また解決までに時間がかかる案件が多かった。

このような案件の対応にあたる窓口スタッフには専門的な研修や、これまで以上に多方面の支援機関や関連機関との協力体制の構築が必要となってくることは確かである。

①にほんご教室の実績報告及び参加人数集計表（参加のべ人数）

開催月	開催回数	参加者		スタッフ 外部講師	合計人数	備考
		学習者	ボランティア			
4月	0	0	0	0	0	
5月	3	21	34	9	64	
6月	1	4	8	3	15	
7月	4	19	40	12	71	28日市民環境課と連携実施
8月	1	6	7	2	15	
9月	5	50	43	16	109	
10月	0	0	0	0	0	
11月	3	29	32	9	70	17日広域連合消防本部と連携実施
12月	1	3	12	3	18	
1月	4	40	34	18	92	26日天草警察署と連携実施
2月	0	0	0	0	0	
3月	4	18	28	12	58	
合計	26	189	239	84	522	
(昨年度実績)	21	189	221	54	464	

本年度参加人数 学習者（7か国）39名、日本人（講師、ボランティア、ゲスト講師）58名



◆学習者延べ数の国籍別人数（単位：人）

【日本語教室】日本語教室も4年目に入り、運営も安定しつつ、新規の広がりも見せている。ニーズの高さから本渡以外の遠隔地の実施も望まれ、オンラインによる実施を検討したい。



「新しい参加者で賑わっています」



技能実習生やALTなど入れ替わりがあるので常に広報に配慮し新規参加者を迎えている。



「ボランティアさんが活躍します」



ボランティアさんと学習者さんは、ほぼマンツーマンで勉強します。地域の人との関係性をお互い良好に育んでいます。



「書くのもしっかり学習します」



読み書きも隣でボランティアさんがいるので間違いに気づいてもらえ、上達しやすいです。



「季節の行事と日本の伝統文化」



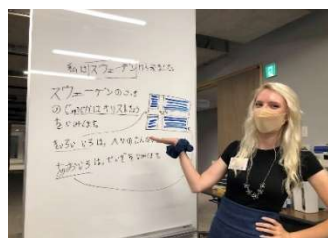
本年度は、七夕と、お正月の書初めを体験しました。筆を使って願い事や目標を一緒に書き上げました。



「ゲームで日本語学習！」



伝言ゲームやしりとりなど様々なゲームで楽しく日本語を学びました。チーム戦でとても盛り上がり大好評でした。



「みんなの前で発表もします」



みんなの前で発表することも大切です。自信が無い時はペアの人にたすけてもらうなど工夫されているので安心です。

外部との連携

7月に天草市市民環境課、11月に天草広域連合の消防署職員、1月に天草警察署と連携した日本語教室を実施した。

市民環境課と連携した回では、ゴミの出し方や分別について学習し、クイズ大会、実物のごみの分別などをおこなった。

広域連合と連携した回では、火事や病気が、事故などにあった時の通報について事前学習をした上で、消防署見学をし、学んだ日本語を使って通報をしたり、実際の三者通訳システムを使って通報体験をしたりすることができた。また、心肺蘇生法についても講習を受け、実際に体験してみた。

どれも外国人にとって天草で暮らすためには大切な内容を、より実践的に楽しく学習でき、参加者にとっても好評だった。

また、消防署の職員の方々には、別途「災害時のやさしい日本語講座」を受講していただいたり、市民環境課の職員の方からは、外国人住民が急増している牛深地区で別途開催したいとの依頼を受け、実施したところである。

【市民環境課との連携】



ごみの捨て方について説明



実物のゴミを見ながら、名称と捨て方を確認

【天草広域連合消防本部との連携】



事前に関連単語について学習



三者間同時通訳を使って通報練習



心肺蘇生法の練習



救急車や消防車も実物を見ながら、説明を聞く様子

【天草警察署との連携】



道路標識の意味を覚えます



日が落ちた後にドライバーから歩行者は
どんな風に見えるかのデモンストレーション



クイズ大会で、楽しく正しい知識を持てるように工夫

【受託事業①】多文化共生支援事業（天草市総合政策部政策企画課）

ボランティア養成

◆日本人ボランティア向け「やさしい日本語講座」（1回実施）

と き 令和4年8月25日（木）6時30分～8時30分まで
ところ 市複合施設 こころす
参加者 日本人ボランティア 16人（オンライン1名含む）
来日したばかりのインドネシア人 2名
講師 2名

内 容

- ・「やさしい日本語」講座
- ・外国人参加者との会話実践

〈所感〉

今回は、様々な活動でワールドフレンズ天草と繋がりのある市民環境課、男女共同参画課の天草市役所職員の方や市民活動サポートセンターあまみのスタッフさん、多文化共生を課題学習している生徒さんを指導されている高校の先生も参加して下さった。また、天草地区の中でも遠方の牛深からもオンラインで参加していただき、今後の遠隔地での支援も、協力して下さるボランティアが増えつつあることを実感している。

日本に来て3か月のインドネシア人の2人の参加者に私たちが普段使っている日本語で話した場合と「やさしい日本語」に言い換えて話した場合を理解できるかどうか判定してもらった。参加者からは、こんなにも普段つかっている日本語が外国人にとっては難しいのだということを目の当たりにして、より一層「やさしい日本語」を使う必要性が実感できたとの感想をいただいた。

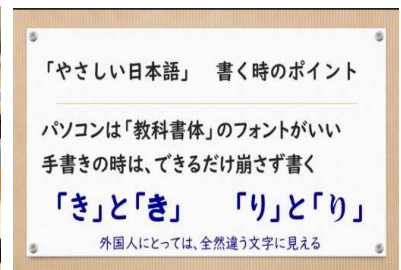
様々な立場や環境で「やさしい日本語」を使って外国人とコミュニケーションがとれる人が増えると、在住外国人の方々も暮らしやすい天草になっていくことを改めて感じ、継続実施の必要性を再確認できた。



いろいろな場面の例を挙げる



伝わり方の違いを実感



書き方についても学習した

◆ボランティア講師の授業

日本語教室にボランティアとして来て下さった方に、将来教室の講師として活躍していただける人材を増やしていく試みとして、今年度も継続して、小グループに授業をおこなってもらった。

本年度の日本語教室ではのべ10名のボランティアさんが講師を体験された。

ご本人の希望をお伺いして、授業テーマから一緒に考えて準備したいという方には、テーマ決めから一緒におこない、初めての方に関しては、こちらから内容の提案をして、授業の進め方や資料を一緒に準備するようにした。

ボランティアの方、各人が得意とし、詳しい内容をテーマにすることにより、より自信をもって授業にのぞむことができたようである。

経験が浅いボランティア講師の方には、私達が横について、ときどき間違いを修正したり、学習者さんに質問を振って場の空気を盛り上げるなど、目を離さずきめ細かくフォローするよう心掛けた。

学習者さんはもちろん、ボランティアさんも来て楽しかった、来て良かった、人の役に立ったと思っていただくことが本教室の大きな目的でもあるが、その点についても概ね達成できたと思われる。

また、昨年度、ボランティア講師として経験を積んだ1名に関しては今年度、メイン講師（本講師）として1年間の日本語教室の運営にも関わってもらい、通信制の日本語教師の資格も習得された。

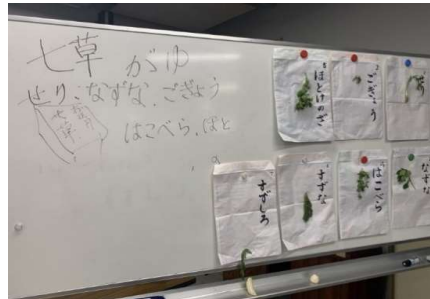
さらに、昨年度から継続して、日本語教室のボランティアに参加してくれていた高校生が、4月から大学に進学し、日本語教師になるための勉強を開始される。「この日本語教室に参加して、夢まで見つけることができ本当によかったですし、楽しかったです。大学でたくさん勉強してきます！！長期休みに帰ってきたときにはまた参加しようと思うので、その際はまたよろしくお祈いします！」という言葉をもらいました。

この日本語教室が、在住外国人のためだけの事業ではなく、天草の若い世代に夢や希望をもってもらおうきっかけになったことも、とても嬉しく思っている。

今後も、日本語を学ぶだけではなく、日本語学習を通じて、多文化共生を実現できる場となればと考えてい



学習者の隣にボランティアが1名つくという、参加人数のバランスもだいぶ安定してきている。個別にボランティアがいることで、前で授業をする講師も、多少レベルが違う学習者がいても授業を進めやすい。



各ボランティア講師の特技を活かした授業内容。1月に筆を使って、七草の名前を平仮名で練習したり、1年の目標を書いて発表した。

③日本人向け「やさしい日本語専門講座」（同じ内容を2回実施）

と き 令和4年11月12日（土）、13日（日）10時00分～11時30分まで
ところ 天草広域連合消防本部
対 象 天草広域連合消防職員、天草地域住民（日本語を母語としている人）
参加者 12日(土)24名、13日(日)27名 計51名

〈経緯〉

毎年実施している「くらしの日本語教室」の消防特別回のなかで、日本語での通報訓練や三者通訳を介した通報の練習をしている。その際、通報を受けたり駆けつけて対応する消防職員の方々が、外国人に慣れておらず、会話が成り立たない状況がたびたび見受けられていた。そこで、消防職員の方にも参加していただきやすいように、緊急時の「やさしい日本語」に特化した専門的な内容の講座を開催する事とした。

〈内容〉

「ことばのバリアフリー 緊急時に役立つやさしい日本語講座」というタイトルで、以下の内容をお話した。

- ① 団体の紹介
- ② 天草の外国人の状況
- ③ 世界の消防、救急の状況
- ④ 「やさしい日本語」とは
- ⑤ ワークショップ

・準備された緊急時を想定した外国人との会話を4～6人グループで「やさしい日本語」に変換し、発表してもらう。

・災害時、避難所などで外国人が困るであろうことを想像し、どうすれば外国人も日本人も過ごしやすくなる

〈所感〉

世界の消防や救急について知ってもらうことにより、天草で暮らしている外国人の「消防、救急について知っている知識や習慣、考え方など」は、日本人とは同じものでなく、対応する際に言葉だけに限らず配慮が必要であることを改めて認識していただけたようである。

また、外国人から119番通報があった時の受け答えを「やさしい日本語」に変換し、発表してもらう場面では、どのグループも臨場感ある実演をしてくださり、とても印象に残る内容になったと思う。今までは、外国人側に日本の緊急時の対処方法を伝えることだけを行っていたが、消防職員含め、日本人側にも外国人によりそってやさしい日本語の対応を学んでいただけて、緊急時お互いに理解し合い対応できる多文化共生のステップアップになっ



一般の参加者と消防本部の職員が



状況を想像し、グループで「やさしい日本語」での声掛け方を考える



実際の状況を演じな

【受託事業②】雲仙天草国立公園（天草地域）におけるガイド育成、魅力発信等事業

ガイド養成

◆ガイド育成講座

とき／ところ／参加者

講座名		実施日	参加者数	場所
経験者クラス	座学1回目	11月19日(土) 13:00～16:20	16名	天草市複合施設ここらす
	座学2回目	12月3日(土) 13:00～16:55	27名	天草市民センター
新規クラス	座学1回目	11月20日(日) 13:00～16:50	19名	天草市複合施設ここらす
	座学2回目	12月4日(日) 13:00～16:20	23名	天草市複合施設ここらす
実地研修「苓北・西平椿公園コース」		12月11日(日) 10:00～15:05	26名	
実地研修「御所浦・倉岳コース」		12月18日(日) 9:45～15:00	10名	
			のべ参加者数	121名

〈座学内容〉

【経験者/新規クラス1回目】

- ・ガイド概論
- ・マナー講座
- ・ブレイクアウト（イラスト自己紹介）
- ・国立公園概論

【経験者/新規クラス2回目】

- ・実地研修についての基礎講座
①御所浦 ②倉岳 ③苓北 ④西平椿公園
- ・実地研修の説明、ワークショップ
- ・インバウンド講座

〈座学の様子〉



〈所感〉

【座学1回目】

経験者クラスと新規クラスでは、同じプログラムで構成したが、新規クラスでは基本の部分を重点的に説明を行なった。

経験者クラス

ガイド歴3、4年～20年以上のベテランまで、幅広い経験者に参加してもらえた。基本的なことも、改めて学んでいただき、またボランティアガイドではなくプロのガイドと同じ志やスキルを学んでいただけるよう意識した。また、これまでの案内内容に国立公園についての説明をプラスしてさらに案内に厚みのあるガイドをしていただけるよう工夫した。

新規クラス

これまでガイドの会などに所属していてもガイドとしての案内の経験がほとんどない方、天草に移住してきて天草の事をもっと知りたいという方、ガイド業務自体に興味があるという方の参加が多かった。ガイドは難しいと感じてしまわれぬように、楽しい雰囲気講座をおこなうことを心掛け進めた。天草でボランティアガイドをされている年齢層が60代以上が多い中、20代～40代の方の参加者が多く、問いかけへの反応もよく、質問も出て活気のある講座となり、喜んで頂けた。

【座学2回目】

講座とグループワークを混ぜ、知識のインプットとアウトウツプをバランスよく行えるよう心掛けた。

経験者クラス

自分がこれまでガイドしていた地域ではない場所の知識が増えただけでなく、他地域のガイドと一緒にグループワークをすることによってガイド同士のネットワークも広がったようである。また普段互いに見せ合う事のない案内内容をグループで作成・発表し合うことで、今後のガイドのスキルアップにつながったと思う。

新規クラス

情報を得、話を組み立て、人前で話すというガイドの流れを実際に体験してもらえらる機会となった。

〈実地研修内容〉

【苓北・西平椿公園コース】※経験者と初心者の2グループに分かれて行動

苓北町研修

〈実地研修の様子〉

- ・坂道(堅堀等)
- ・二の丸石垣の跡
- ・箱勢籠・埋門
- ・天草回天之碑
- ・石段
- ・富岡の砂嘴(風景)
- ・富岡ビジターセンター(館内)
- ・富岡稲荷(連鳥居)
- ・鈴木重成公像
- ・百間土手
- ・袋池
- ・白岩崎海岸

苓北町富岡城



西平椿公園



西平椿公園内研修

- ・カメラアハウス
- ・西平椿公園内

〈所感〉

経験者グループ (経験者クラス受講者のうちガイド経験が豊富な方)

普段案内されている方ばかりだったので、所々で知識の披露合戦になりそうになった。知識量ではなく、いかに分かりやすく、歴史などの話ばかりに偏らず多様な話題を提供できることの大切さを理解していただいた。またお客様にガイドとの会話のキャッチボールを楽しんでいただけるような話し方や立ち位置、移動の際の安全な誘導の仕方も学んでいただけるように意識した。

初心者グループ (新規クラス受講者+経験者クラス受講者のうちガイド経験が浅い方)

実習地に初めて訪れる人も多く、実際のコースを見て知ることが目的の一つとなった。事前に伝えたテーマについて準備をしてきてもらい、各ポイントで積極的に発表してもらった。地元の人でも知らなかった地域の魅力を知ってもらい、今後のガイド活動への意欲につながったと思う。

【御所浦・倉岳コース】

御所浦クルージング試乗

- ・御所浦港
- ・京泊（恐竜足跡化石）
- ・白亜紀の壁
- ・採掘場跡（化石発掘体験）
- ・棚底港

棚底地区研修

・棚底コミュニティセンター会議室にて写真を使って倉岳山頂の説明と案内

- ・石垣
- ・コグリ
- ・倉岳・矢筈岳
- ・コミュニティーセンター

〈実地研修の様子〉

御所浦



倉岳



大雪のため、現地に来れず欠席となった方が複数名おられ、大変残念がられていた。しかし、御所浦への船は予定通りに出航でき、雪景色の中、化石採集の体験場所での研修も行うことができた。

倉岳山頂への道は雪で通行止めとなったため、昼食会場だった棚底コミュニティセンター会議室で写真や資料を使って山頂部分の研修を補った。

〈所感〉

経験者グループ（経験者クラス受講者のうちガイド経験が豊富な方）

御所浦では講師の地元のガイドの方にどんどん質問をして、熱心にメモを取られていた。地理や歴史、養殖の種類や、御所浦での暮らしぶりなど多方面に渡る知識を得ることができた。

倉岳棚底地区では、このグループは全員倉岳在住のガイドの方たちだったため、お互いに情報共有が進み新しい視点を得ての、より深いガイディングにつながった。

初心者グループ（新規クラス受講者+経験者クラス受講者のうちガイド経験が浅い方）

御所浦では、船の中での案内という特徴的なガイドスタイルに、熱心に耳を傾け案内される内容をメモされていた。倉岳では、整備された観光地とは異なり、地域の方が生活されている道や畑の風景など暮らしに溶け込んだ歴史遺産を案内するというので、どこで立ち止まって案内するか、また何を話のハイライトとするか、外から来たお客様の視点で考えていただけるよう意識した。

【受託事業③】 交通事業者経営強化支援事業（インバウンド向けモニターツアー事業）

と き 第1回モニターツアー 令和5年3月4日(土) 9時00分～17時00分
令和5年3月5日(日) 9時00分～17時10分
第2回モニターツアー 令和5年3月9日(木) 9時00分～17時10分
令和5年3月10日(日) 9時00分～17時40分

ところ 熊本県水俣市

参加者 第1回モニターツアー 大人8名、小人1名 計9名
第1回モニターツアー 大人12名、小人0名 計12名

業務内容

- ・モニターの募集（九州在住台湾人対象）
- ・モニターツアー通訳案内
- ・モニター21名とその他台湾人124名に対するアンケート実施（設問・回答の翻訳）

内 容

〈第1回モニターツアー〉

●3月4日(土)

- ・肥薩おれんじ鉄道乗車 ※くまモンラッピング列車 体験乗車
- ・パエリア作り体験
- ・クラフトビール工場見学
- ・農林水産業用の刃物や日用の刃物を制作
- ・アウトリガーカヌー体験
- ・カヌーの他、水俣市が推奨するマリナクティビティを紹介（SUP、シュノーケリング、タツノオトシゴ鑑賞等）



●3月5日(日)

- ・湯の児島一周散歩
- ・不知火海で釣り、釣った魚は昼食時に提供
- ・竹林園、恋人の聖地、親水護岸等の見学
- ・水俣のきれいな海で育まれた「恋路かき」を味わう
- ・TEAサロンで和紅茶提供



〈第2回モニターツアー〉

●3月9日(木)

- ・肥薩おれんじ鉄道乗車 ※くまモンラッピング列車 体験乗車
- ・くまモン型ウイナー作り
- ・農林水産業用の刃物や日用の刃物を制作
- ・紙漉き体験・工房見学
- ・アウトリガーカヌー体験



●3月10日(金)

- ・和紅茶作り体験：茶もみ、ティーバッグ作成、試飲 ※桜野園より出張体験
- ・背戸屋巡り・湯出神社・棚田見学
- ・昼食（石造りの蔵の中で、自家製の季節の野菜やニジマスなどの田舎料理をいろいろを囲んで楽しむ）
- ・竹林園、恋人の聖地、親水護岸等の見学
- ・TEAサロンで和紅茶提供

